

10番の歌 私たちの神エホバを賛美しましょう！

「エホバの名を賛美せよ」

「エホバに仕える人たち、 賛美せよ。 エホバの名を賛美せよ」。 詩編 113:1

ポイント：どんなことについて考えると、 エホバの神聖な名をいつも賛美したいという気持ちになるでしょうか。

1-2. エホバはご自分の評判を傷つけられた時、 どんな気持ちになりましたか。それをどんな例えで考えることができますか。

こんな場面を想像してみてください。 大切にしている人からひどいことを言われました。それは事実ではないのに、 ある人たちは信じてしまいます。さらに、 そのうそは広まり、 もっと多くの人がそれを信じるようになりました。あなたは自分の評判や周りの人のことを大事に思っています。それで、 根拠のない悪口を言われたら、 悲しくなるのではありませんか。 (格 22:1 多くの富よりも良い名(*良い評判/d名)を選べ。 尊ばれることは銀や金に勝る)

2 この例えから、 エホバがご自分の評判を傷つけられた時にどんな気持ちになったかを知ることができます。エホバの子供である天使の1人がエバに、 エホバについてのうそを言いました。エバはそのうそを信じました。そしてアダムとエバはエホバに反逆しました。こうして人類に罪と死が入りました。 (創 3:1-6 さて、 エホバ神が造った野生動物の中で蛇が最も用心深かった(*利口だった)。蛇が女に言った。 「あなたたちは庭園の全ての木の実を食べてはならない、 と神が言ったのは本当ですか」。 2 女は蛇に言った。 「私たちは庭園の木の実を食べてよいのです。 3 でも、 庭園の真ん中にある木の実について、 神は、 『食べてはならない。触れてもならない。食べたり触れたりするなら死ぬ』と言いました」。 4 蛇は女に言った。 「あなたたちは決して死にません。 5 その木の実を食べた日に、 目が開かれ、 あなたたちが神のようになって善惡を知るようになることを神は知っているのです」。 6 そこで女がその木を見ると、 おいしそうな実が付いていて、 魅力的な美しい木に見えた。それで女はその木の実を取って食べ始めた。その後、 一緒にいた時に夫にも渡した。夫もそれを食べ始めた。 ロマ 5:12 このような訳で、 1人の人によって人類に罪が入り、 罪によって死が入り、 こうして、 全ての人が罪人になったために、 死が全ての人に広がったように—) 今の世の中に見られる死や戦争といったつらいことは全て、 サタンがエデンの園で広めたうそが原因です。 エホバはこうした根拠のないうそや、 その結果起きている問題を見てどう感じているでしょうか。 悲しんでいるに違いありません。それでも、 腹を立てたり根を持ったりしてはいません。 エホバはずつと「幸福な神」です。 (テモ一 1:11 その教えは幸福な神の素晴らしい良い知らせと一致しており、 私はその良い知らせを託されました)

3. 私たちはどんなことに貢献できますか。

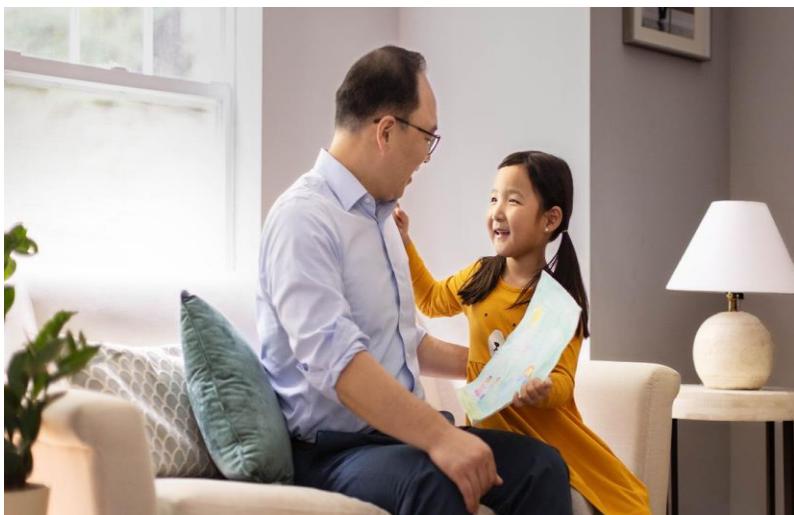
3 私たちはうそによって傷つけられたエホバの評判を回復することに貢献できます。 「エホバの名を賛美せよ」というシンプルな命令に従うことによってです。 (詩 113:1 ヤハを賛美せよ(*ハレル

ヤ)！エホバに仕える人たち、賛美せよ。エホバの名を賛美せよ) つまり、エホバという聖なる名を持つ方の素晴らしいところについて語るのです。そうしたいと思いませんか。では、心を尽くしてエホバの名を賛美したいという思いを強めるのに役立つ3つの点を考えましょう。

エホバに喜んでもらうことができる

4. 私たちがエホバを賛美するとエホバが喜ぶのはどうしてですか。 (写真も参照。)

4 私たちがエホバの名を賛美する時、エホバは喜んでくれます。 (詩 119:108 エホバ、どうか喜んでください、賛美の言葉という私(d*私の口)の自発的な捧げ物を。あなたの法規(d*裁き)を教えてください) ある人は、不安で自信がないので褒め言葉が欲しいと思うかもしれません、全能の神であるエホバはそうではありません。例えで考えてみましょう。幼い娘が父親に抱き付き、「世界で一番好き！」と言います。父親は娘の素直な言葉を聞いて感動し、とても幸せな気持ちになるでしょう。では、この父親について、「この人は娘からのこういう言葉がないと不安になるんだ」と思うでしょうか。そんなことはないはずです。きっと、「娘が愛や感謝を示すのを見て、子供の成長を喜んでいるんだ」と思うことでしょう。この父親は、愛や感謝がずっと幸せでいるために役立つということをよく知っています。私たちがエホバを賛美する時、最高のお父さんであるエホバも同じような理由で喜んでくれます。



父親が子供から愛や感謝を伝えられるうれしいと同じように、私たちがエホバの名を賛美する時、エホバは喜ぶ。 (4節を参照。)

5. エホバを賛美するなら、どんなうそに反論できますか。

5 天の父エホバを賛美するなら、サタンが私たち一人一人について述べているうそに反論できます。サタンは最後まで神に忠誠を尽くす人はいないと主張しました。人は神に背いた方が自分にプラスになると思ったなら必ず神に背くと言いました。 (ヨブ 1:9-11 サタンはエホバに答えた。「ヨブは本当に純粋な気持ちで神を畏れているのでしょうか。10 彼も家族も全ての持ち物も、あなたが柵で囲んで守つたのではありませんか。あなたの祝福によって彼の仕事はうまく運び、家畜は非常に多くなりました。11 試しに、あなたの手を出して、彼の持つもの全てを破壊してください。彼はきっと面と向かってあなたを侮辱します」; 2:4 サタンはエホバに答えた。「誰でも自分の身が一番(d*皮膚のために皮膚)です。人は自分の命を守るために、自分

が持つもの全てを差し出します) でも、ヨブはサタンがうそつきであることを証明しました。あなたはどうですか。私たちはエホバに忠誠を尽くすことによって、エホバの評判を守り、喜んでいただくことができます。 (格 27:11 わが子よ、賢くあって、私の心を喜ばせよ。私をあざける(*に挑む)者に私が答えるためである) これは本当に光栄なことです。

6. どうすればダビデやレビ族の人たちに倣うことができますか。 (ネヘミヤ 9:5)

6 エホバを愛する人はエホバという名を心から賛美したいと思うはずです。ダビデ王はこう書きました。 「私はエホバを賛美する。心を尽くして神の聖なる名を賛美する」。 (詩 103:1 私はエホバを賛美する。心を尽くして神の聖なる名を賛美する) ダビデはエホバの名を賛美するなら、エホバを賛美していることになるということを理解していました。エホバの名には評判が含まれているので、それはエホバの素晴らしい性格や行いを連想させます。ダビデはお父さんエホバの名を大切にしていて、「心を尽くして」賛美したいと思っていました。レビ族の人たちも同じようにエホバの名を心から賛美しました。エホバの聖なる名はどんな言葉でも賛美しきれないということを謙虚に認めていました。 (ネヘミヤ 9:5 エシュア、カドミエル、バニ、ハシャブネヤ、シェレブヤ、ホディヤ、シェバヌヤ、ペタフヤというレビ族の人たちは言った。「立ち上がって、エホバ神を永遠にわたって(*永遠から永遠まで)賛美しなさい」。そしてこう言った。「神よ、あなたの名が賛美されますように。あなたの名は、どんな賛美や称賛の言葉でも言い尽くせないほど輝かしいものを読む。) このように自分の小ささを認めつつ心から捧げられる賛美を聞いて、エホバはとても喜んだに違いありません。

7. 宣教や日常生活の中でどのようにエホバを賛美できますか。

7 現代の私たちも、エホバへの愛や感謝を熱く語ることによって、エホバに喜んでもらうことができます。宣教の一番の目的は、人々が私たちと同じようにエホバと親しくなり、愛情深い天のお父さんを知るように助けることです。 (ヤコ 4:8 神に近づいてください。そうすれば、神は近づいてください。罪人たち、手を清めてください。優柔不断な人たち、心を清めてください) エホバの愛や公正さ、知恵、力といった魅力的なところについて、聖書が教えていることを人々に伝えられるとうれしくなります。さらに、エホバに倣うために一生懸命努力することによっても、エホバを賛美できます。 (エフェ 5:1 皆さんは子供として神に愛されているのですから、神に倣ってください) 私たちがエホバに倣うなら、人々はこの悪い世の中にあって、私たちの生き方が違うことに気付き、興味を持つかもしれません。 (マタ 5:14-16 あなたたちは世の光です。山の上にある町は、隠されることはありません)

15 また、人はランプをともすと、籠で覆うのではなく台の上に置きます。そうすれば、家の中にいる全員を照らせます。 16 同じように、あなたたちの光を人々の前に輝かせなさい。そうすれば、人々はあなたたちの立派な行動を見て、天にいる父をたたえるでしょう) そしてそれは、私たちがほかの人と違う理由について説明するチャンスにつながるかもしれません。その結果、誠実な人たちはエホバのもとに引き寄せられます。私たちはいろいろな方法でエホバを賛美することによって、エホバに心から喜んでもらうことができます。 (テモ一 2:3, 4 そのように祈ることは、私たちの救い主である神から見て良いことであり、受け入れられることです。 4 神は、あらゆる人が救われて、真理の正確な知識を得ることを望んでいます)

イエスに喜んでもらうことができる

8. イエスが誰よりもエホバの名を賛美したといえるのはどうしてですか。

8 イエスほど、エホバのことを知っている方はいません。 (マタ 11:27 全てのものは父によって私に渡されています。子を本当に知っているのは父だけであり、父を本当に知っているのは、子と、子が進んで父を啓示する者たちだけです) イエスは天のお父さんことを心から愛していて、誰よりもエホバの名を賛美しました。 (ヨハ 14:31 しかし、私が父を愛していることを世の人々が知るために、父が命じた通りにしています。立ちなさい。出掛けましょう) 死ぬ前の晩に捧げた祈りの中で、地球にいた間に行つた宣教を振り返つて、「私はあなたのお名前を彼らに知らせました」と言いました。 (ヨハ 17:26 私はあなたのお名前を彼らに知らせました。これからも知らせます。あなたが私を愛してくださったように彼らが愛を示し(d*愛してくださった愛が彼らの内にあり)、私が彼らと結び付いているためです) これはどういう意味だったのでしょうか。

9. イエスはどんな例え話をして、天のお父さんについて分かりやすく教えましたか。

9 イエスは神の名前がエホバだということをただ人に伝えただけではありません。当時のユダヤ人は神の名前をすでに知っていたからです。イエスは進んで「神について説明し[ました]」。(ヨハ 1:17, 18 なぜなら、律法はモーセを通して与えられ、惜しみない親切と真理はイエス・キリストを通して実現したからである。18 これまで神を見た人はいない。しかし、天の父のそばにいる、神のような独り子が、神について説明した) ヘブライ語聖書は、エホバが憐れみ深く、思いやりがある神であることを明らかにしています。 (出 34:5-7 エホバが雲のうちに下ってきて、モーセと共にそこに立ち、エホバという名を宣言した。6 エホバはモーセの前を通り過ぎつつ、こう宣言した。「エホバ、エホバ、憐れみ深く、思いやり(*慈しみ)がある神、すぐに怒らず、搖るぎない愛(*愛ある親切)に満ち、常に信頼できる(*真実を語る)。7 搖るぎない愛を幾千代までも示し、過ちと違反と罪を許す。しかし、罪がある人を処罰しないことは決してなく、父の過ちに対する処罰を子や孫やひ孫に及ぼす」) イエスはそのことを、好き放題の生活をした息子と父親の例え話でさらに分かりやすく教えました。父親は、本心に立ち返った息子を「まだ遠くにいる間に」見つけ、走つていって抱き締め、心から許しました。私たちはこの話を読むと、エホバが思いやりがあつて、憐れみ深い神であることははっきりとイメージすることができます。 (ルカ 15:11-32³¹ 父親は言いました。『息子よ、おまえはいつも私といたし、私の物は全部おまえのものだ。32 でも、祝って喜ばずにはいられなかつた。おまえの弟が死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだ』) このように、イエスは天のお父さんがどんな方かを明らかにしたのです。

10. (ア) イエスはほかの人たちにもエホバの名を使ってほしいと思っていました。どんなことからそれが分かりますか。 (マルコ 5:19) (挿絵も参照。) (イ) イエスは私たちにどんなことを願っていますか。

10 イエスはほかの人にもエホバの名前を使ってほしいと思っていたでしょうか。確かにそう思っていました。当時の偽善的な宗教指導者の中には、神の名前はあまりにも神聖なものなので発音するべきではないと考える人たちもいました。でもイエスは、聖書に基づかないこうした伝統に影響されることなく、エホバの名を賛美しました。ゲラサの人たちの地域で邪悪な天使に取りつかれた男性を癒やした時のことを考えてみましょう。起きたことを見聞きした人たちはイエスのことを恐れ、その地域から去つてほしいとお願いしました。それでイエスはその通りにしました。 (マルコ 5:16, 17 また、目撃していた人たちから、邪悪な天使に取りつかれた男や豚に起きたことを聞いた。 17

それでイエスに、この地域から去ってくださいと嘆願し始めた）でもイエスはエホバの名がその地域の人たちにも知られることを願っていました。それでイエスは癒やされた男性に1つの務めを与えます。イエスではなくエホバがしたことを人々に伝える、という務めです。（[マルコ 5:19](#)しかしイエスはそれを許さず、こう言った。「親族のもとに帰り、エホバがしてくださった全てのことと示してくださった憐れみについて知らせなさい」を読む。）*マルコがイエスの言葉を記録した時にエホバという名前を使ったといえる十分な証拠があります。それで、「新世界訳聖書」ではエホバの名前が使われています。[この聖句の注釈](#)（エホバがしてくださった全てのこと：イエスは、奇跡が自分ではなく天の父によるものであることを癒やされた人に伝えている。ルカが同じ出来事を記した時にテオス（神）というギリシャ語を使っていることからもそう言える。（[ルカ 8:39](#)）ほとんどのギリシャ語写本はここ[マル5:19](#)で「主」（ホキュリオス）としているが、もともと神の名前が使われていて後代に主という称号に置き換えられたと考える十分な理由がある。そのため、こここの本文でエホバという名前を使っている。[付録C1](#)、[C3の序文](#)と[マル5:19](#)を参照。）もご覧ください。イエスの願いは今も変わっていません。私たちに世界中でエホバの名を知らせてほしいと思っています。（[マタ 24:14](#)そして、王国の良い知らせは、全ての国の人々が聞けるように世界中で伝えられます。それから終わりが来ます：[28:19](#)、[20](#)それで、行って、全ての国の人々を弟子としなさい。父と子と聖なる力の名によってバプテスマを施し、[20](#)私が命令した事柄全てを守るように教えなさい。私は体制の終結までいつの日もあなたたちと共にいるのです）それで、私たちが一生懸命に努力する時、王であるイエスに喜んでもらうことができます。



イエスは邪悪な天使に取りつかれていた男性に、エホバがどのように助けてくださったかを人々に知らせるようにと命じた。（10節を参照。）

11. イエスは弟子たちにどんなことを祈るようになに教えましたか。そのことが重要なのはどうしてですか。（[エゼキエル 36:23](#)）

11 エホバがご自分の名誉を回復し、お名前を神聖なものとしようとしていることをイエスは知っていました。それで弟子たちにこう祈るように教えました。「天におられる私たちの父よ、お名前が神聖なものとされますように」。（[マタ 6:9](#)それで、このように祈らなければなりません。『天におられる私たちの父よ、お名前が神聖なものとされますように』）イエスは、この問題が人間にとっても天使たちにとっても一番大きな問題であることを理解していました。（[エゼキエル 36:23](#)主権者である主エホバはこう宣言する。『私は、あなたたちが異国の人々の中で汚した、私の偉大な名を、必ず神聖なものとする。そして、あなたたちの中で、異国の人々の目の前で、私が神聖なものとされる時、異国の人々は私がエホバであること

を知らなければならなくなるを読む。) イエスは誰よりもエホバのお名前を神聖なものとしました。でも敵たちは、イエスが神を冒瀆したと言ってイエスを逮捕しました。イエスにとって、神の名を汚したと訴えられたことはこの上なくつらいことでした。だからこそ、逮捕される数時間前、イエスは「深く苦悩し」たのでしょう (ルカ 22:41-44) そして、石を投げれば届くほどまで離れ、膝をかがめて祈り始め、42こう言った。「父よ、あなたが望まれるようでしたら、この杯を私から取り除いてください。とはいって、私の望むことではなく、あなたの望まれることがなされますように」。43その時、天使が現れてイエスを力づけた。44しかしイエスは深く苦悩し、さらに真剣に祈り続けた。汗が血のようになって地面に滴り落ちた

12. イエスはエホバの名を神聖なものとするためにどんな素晴らしいことをしましたか。

12 イエスはお父さんエホバの名を神聖なものとするために、ありとあらゆる虐待や侮辱を忍耐しました。ずっとエホバに従ってきましたし、恥じるべきことは何もありませんでした。 (ヘブ12:2) 私たちの信仰を導き、完全にしてくださる方であるイエスを一心に見つめながら走るのです。イエスは、前途にある喜びのために、恥を物ともせず苦しみの杭(*)に耐え、神の座の右に座りました) また、サタンから直接攻撃されているということも分かっていました。 (ルカ 22:2-4) 祭司長と律法学者たちは、イエスを除き去るうまい方法を探していた。民を恐れていたのである。3また、12人の中に数えられ、イスカリオテと呼ばれるユダにサタンが入り込んだ。4ユダは出掛けていき、イエスを裏切って渡す方法について祭司長と神殿の指揮官たちと話し合った; 23:33, 34 兵士たちは、どくろと呼ばれる所に着いた時、イエスを杭にくぎ付けにし、その左右に犯罪者たちを1人ずつくぎ付けにした。34しかしイエスは言った。「父よ、彼らをお許しください。自分たちが何をしているのか知らないのです」。さらに彼らは、くじを引いてイエスの服を分配した) サタンはイエスがエホバに心を尽くして仕えるのをやめさせようとしましたが、そのたぐらみは失敗に終わりました。イエスは、サタンがたちの悪いうそつきであることを明らかにし、どんな難しい問題の中でも心を込めてエホバに仕える人がいるということを証明しました。

13. 王であるイエスに喜んでもらうために何ができますか。

13 王であるイエスに喜んでもらいたいと思うなら、エホバがどんな方かについてほかの人に伝え神の名を賛美しましょう。そのようにしてイエスの手本にしっかりと付いていくことができます。 (ペテー 2:21) 皆さんはこうした道に招かれました。キリストでさえ皆さんのために苦しみ、その歩みに皆さんがしっかりと付いてくるよう手本を示しました) イエスのようにエホバを喜ばせ、神の敵であるサタンがひどいうそつきであることを証明できます。

人々の命を救うことができる

14-15. 人々にエホバについて教えるなら、どんな良い結果になりますか。

14 エホバの名を賛美するなら人々の命を救うことにもなります。どうしてそういえるでしょうか。サタンは「信仰のない人たちの思考を遮」ってきました。 (コリ二 4:4) 今の体制(*時代/用語集: ギリシャ語アイオーンの訳で、特定の期間、時期、または時代を特色づける情勢や特徴を指す。聖書が述べる「今の体制」とは、世の中の状況や世俗的な生き方のこと。)の神が、信仰のない人たちの思考を遮り(*心の目をくらまし), 神に似た者であるキリストについての素晴らしい良い知らせの光が輝き渡らないようにしているのです) それで、

次のようなうそをうのみにしている人たちがいます。「神なんていない」。「神は遠く離れていて、人間のことを気に掛けてなどいない」。「神は残酷で悪人をいつまでも苦しめる」。サタンはこうしたうそを使ってエホバの評判を傷つけ、エホバと親しくなりたいと思わせないようにしています。でも私たちが伝道を行うなら、サタンの思い通りにはなりません。エホバについて人々に伝えることによって神の名を賛美することができます。

15 聖書に書かれている真理には大きな力があります。エホバがどんな方かについて教えるなら、とても良い結果になります。人々はサタンのうそから徐々に解放され、エホバが素晴らしい方であることを知るようになります。例えば、エホバが持つ無限の力を畏れるようになります。（イザ 40:26 天を見上げてみなさい。誰がこれらの物を創造したのか。星の軍勢を数え上げて率いている者である。

その者は全ての星を名で呼ぶ。膨大な活力(*動的エネルギー)と驚異的な力を持っているので、一つとして欠ける星はない）完璧に公正である神エホバを信頼するようになり、深い知恵から多くのことを学びます。

（申 32:4 神は岩のような方で、行うことは完全、神の道は全て公正である。決して不公正ではなく、信頼できる神。正しく、真っすぐな方。イザ 55:9 天が地より高いように、私の行い(*道)はあなたたちの行いより高く、私の考えはあなたたちの考えより高い。ロマ 11:33 ああ、神の祝福は何と豊かで、神の知恵と知識は何と深いでしょう。神の裁きを知り抜くことも、神の道を知り尽くすことも決してできません）神が愛であることを知って安心します。（ヨハ一 4:8 愛さない人は、神をよく知りません。神は愛だからです）神と親しくなるにつれて、神の子供として永遠に生きるという希望はより確かなものになっていきます。このように、エホバと親しくなるよう人々を助けられるのは本当に光栄なことです。そうするなら、エホバは私たちのことを「共に働く者」と見てください。（コリー 3:5 アポロは何者ですか。パウロは何者ですか。それぞれが主から与えられた務めを行い、信仰を持つよう皆さんを助けた奉仕者です。9 私たちは神と共に働く者だからです。皆さんは、神が耕している畑、神の建物です）

16. ある人たちは神の名前を知って、どんな良い影響を受けましたか。

16 神の名前がエホバだというシンプルな真理も、誠実な人たちの生き方に大きな影響を与えることがあります。例えば、アリーアという若い女性は、クリスチヤンではない家庭で育ちました。*名前は変えてあります。宗教に入ってはいましたが、心は満たされず、神を身近にも感じていませんでした。でも、エホバの証人と聖書を学ぶようになって、神を親しい友と思えるようになりました。神の名前がたくさん聖書から取り除かれ、「主」などの称号に置き換えられてきたということを知って、とても驚きました。エホバという名前を知ったことで、アリーアの人生は大きく変わりました。「神様には名前があって、しかも親友になれるんだ！」と思いました。アリーアはこう言います。「今では本当に穏やかな気持ちを味わうことができます。エホバという名前を知ることができて本当にうれしいです」。スティーブという男性は、ミュージシャンで、ユダヤ教の影響を強く受け育ちました。でも、組織としての宗教には関わりたくないと思っていました。宗教が教えていることと実際にやっていることの違いをたくさん目にしてきたからです。でも、愛する家族を亡くした時、エホバの証人の聖書レッスンに同席する機会がありました。そこで神の名前を知ってとても感動しました。スティーブはこう言います。「それまで、神様に名前があるなんて知りませんでした。……生まれて初めて、神様を身近な存在に感じることができました。最高の友達を見つけたと思いました」。

17. あなたがこれからもエホバの名を賛美していきたいと思うのはどうしてですか。 (写真も参照。)

17 伝道や聖書レッスンで、エホバという名前について伝えていますか。エホバがどんな方かを知るよう助けているでしょうか。もしそうしているなら、神の名を賛美していることになります。エホバがどんな方かを知らせることによって、これからもエホバの名を賛美していきましょう。それは人の命を救うことになります。私たちの王キリスト・イエスにしっかりと付いていくこともあります。そして何よりも、お父さんエホバに喜んでもらえます。私たちが「[神]の名をいつまでも永遠に賛美」できますように。 (詩 145:2 一日中あなたを賛美します。あなたの名をいつまでも永遠に賛美します)



エホバの名前やエホバがどんな方かを人々に伝えるなら、エホバの名を賛美することができる。 (17 節を参照。)

エホバの名を賛美するなら...

1. エホバが喜んでくれるのはどうしてですか。

- S04 父親が子供から愛や感謝を伝えられるうれしいのと同じように、私たちがエホバの名を賛美する時、エホバは私たちの成長を見て、喜んでくださる
- S05 ヨブがサタンがうそつきであることを証明したように、私たちはエホバに忠誠を尽くしてエホバの評判を守る時、喜んでいただくことができる
- S06 ダビデやレビ族の人たちに倣って、私たちが自分の小ささを認めつつ心から賛美を捧げる時、エホバはとても喜んでくださる
- S07 宣教の一番の目的は、人々が私たちと同じようにエホバと親しくなり、愛情深い天のお父さんを知るよう助けることなので、①エホバの愛や公正さ、知恵、力といった魅力的なところを人々に伝えたり、②悪い世の中の人々と違った立派な行動によって誠実な人たちをエホバのもとに引き寄せるなどいろいろな方法でエホバを賛美するなら、エホバに心から喜んでもらえる

2. イエスが喜んでくれるのはどうしてですか。

- ・S08-09 エホバのことを一番良く知つておられるイエスは、天のお父さんことを心から愛していて、誰よりもエホバの名を賛美し、神について説明された。エホバが思いやりがあつて、憐れみ深い神であることを、好き放題の生活をした息子と父親の例え話によって分かり易く教えた
- ・S10 イエスは邪悪な天使に取りつかれていた男性に、ご自分ではなく、エホバがどのように助けてくださったかを人々に知らせるようにと命じて、ほかの人にもエホバの名前を使ってほしいと思っておられた
- ・S11 イエスは、エホバがご自分の名前を回復しお名前を神聖なものとされることが、人間にとっても天使たちにとつても一番大きな問題であることを理解しておられて、そのように祈るように教えられた
- ・S12 イエスはお父さんエホバの名を神聖なものとするために、ありとあらゆる虐待や侮辱を忍耐され、サタンがたちの悪いそつきであることを明らかにし、どんな難しい問題の中でも心を込めてエホバに仕える人がいるということを証明された
- ・S13 エホバがどんな方かについてほかの人に伝えて、イエスの手本にしつかり付いていくなら、イエスのようにエホバを喜ばせ、神の敵であるサタンがひどいそつきであることを証明可

3. 命を救うことになるといえるのはどうですか。

- ・S14 サタンは信仰のない人たちの思考を遮るために「神なんていない」などの様々な嘘によつて、エホバの評判を傷つけ、エホバと親しくなりたいと思わせず、命への道を遮ってきた。伝道によってエホバについての正しい情報を伝えて、人々の命を救うことに貢献できる
- ・S15 聖書に書かれている真理には大きな力があり、エホバがどんな方かについて教えるなら、とても良い結果になる。人々はサタンのうそから徐々に解放され、エホバが素晴らしい方であることを知ってエホバと親しくなる。そのようにエホバと親しくなるよう人々を助けられるのは本当に光栄なことです。そうするなら、エホバは私たちのことを「共に働く者」と見てくださる

2番の歌 あなたの名はエホバ

△マルコがイエスの言葉を記録した時にエホバという名前を使ったといえる十分な証拠があります。それで、「新世界訳聖書」ではエホバの名前が使われています。[この聖句の注釈](#)もご覧ください。

△名前は変えてあります。

△(詩 113:1) ヤハを賛美せよ*！エホバに仕える人たち、賛美せよ。エホバの名を賛美せよ。

または、「ハレルヤ」。「ヤハ」はエホバの短縮形。

△(格 22:1) 多くの富よりも良い名*を選び。尊ばれることは銀や金に勝る。

または、「良い評判」。直訳、「名」。